

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先・横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘112
県住公社147・五島昌子

300円



ATED. TOKYO (SEL-2) SEOUL, MARCH 10. (AP)
EAN TEXTILE WORKER SINGS A CIVIL-RIGH
VEMENT SONG ABOARD A POLICE VAN AFTER
ND ABOUT 30 OTHER GIRLS WERE TAKEN I
LICE FOR INVESTIGATION OF THEIR BRIEF
STRATION AT A LABOR DAY CEREMONY AGA-

護送車の中で自由の歌をうたう韓国繊維女子労働者
(AP)

逐次刊行物

'13.1.22

国立女性教育会館
女性教育情報センター

特集

日本企業は海外で何をしているか

— 繊維を中心に —

「女工哀史」を輸出する日本繊維産業

— 阪本紡績を追って —

日本女性への手紙 韓国・邦林紡績の女工たち
李小仙さんへの手紙

日系企業とアジアの女性たち

— タイ マレーシア インドネシア —

日本の繊維産業の現場から

“大日本帝国” 紡績資本はかつて……

— 朝鮮半島と中国大陆で —

女大学 経済侵略と女性 北沢洋子

No.3

1978.3

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして！



ソウル市内の教会で開かれた労働者集会

今から五三年前に書かれた「女工哀史」。日本の資本主義発展の原動力となった繊維産業で女子労働者が受けた苛酷な搾取の記録。はたしてこれは、もう遠い昔の話となったのだろうか。それは否といわねばならない。日本の企業は一九六〇年代後半から、海外進出を本格化し、とくにアジアの国々には日本の工場が次々と建てられた。とりわけ繊維産業は低賃金労働力を求めて海外進出した。こうして作られた韓国、台湾、東南アジアなどの日系繊維工場で働く女子労働者たちは、恐るべき低賃金と劣悪な労働条件で搾取され、近代的装いのもとに「女工哀史」的な状況に置かれているのである。

しかし、日系繊維工場で働くアジア各国の女性たちは抗議の声を上げ始めている。タイの繊維労働者は何日間もストライキで抗議したし、最近、韓国の女子労働者たちも立ちあがっている。「未払い賃金を払え」と闘っている邦林紡績もその一つである。ところが、この邦林紡績は、日本の阪本紡績が八五%近く出資した工場で、この在日韓国人が作った阪本紡績では、女子労働者たちが、日韓条約反対闘争や、金鐘泌首相見学阻止闘争などを闘った歴史を持つているのだ。しかし、韓国への進出を止めることはできず、阪本紡績の労働者たちが受けていた搾取を、こんどは進出先の邦林紡績の労働者たちが受けているのである。資本はより利益のあがるところを求めて国境を越えるが、労働者は国境によって隔てられて連帯することはむずかしく、それどころか、対立させられるという悲劇的關係にさえなっている。

海外日本企業、七つの罪状——私たちは告発する!!

アジアの国々を旅してみると、「日本」があふれ返っているのに驚く。日本製品の看板、日本車、日本の工場、そして日本人ビジネスマンに観光客……。日本企業の海外進出は、経済の高度成長につれて一九六〇年代後半から始まり、七〇年代に本格化して、韓国、インドネシア、マレーシア、タイなどは日本の投資が一位を占めるほどだ。

これらの国々は、かつて、日本の軍事侵略に苦しめられた歴史を持つだけに、今また、経済侵略の脅威にさらされて、日本にきびしい目を向けている。昨年五月、マレーシアのペナンで開かれた「アジア女性フォーラム」に参加した女性たちが「日本を初めとする多国籍企業の七つの犯罪を告発する」決議をしたのもそのあらわれだ。——労働力、とりわけ女子労働者を低賃金で搾取している、公害を輸出して環境を破壊している、天然資源を奪っている、有害商品売り込んで、人口を農村から都市へ追いやっている、民族産業を破壊して外国依存経済にしている、独裁政権を支持している、と七つの罪状をあげているのだ。海外進出は多国籍企業の形をとり、まず低賃金労働力を求めて貧しい開発途上国に出て行き、利益をむさぼる。その安い労働力の主力は何をいつても女たちである。だから、繊維や電子関係など人手のいる産業がまず海外進出の口火を切った。たとえば繊維産業では、東レ、帝人を初め各メーカーが東南アジアなど第三世界に競って工場を作り、日系繊維工場は世界中に百七十余工場にものぼるといふ。

き使って肥え太り、こんどはアジアの国々の女たちを搾取しに出ていく。まさに、資本には国境はなく、よりもうかるところへ動いていくのだ。その結果、進出先の工場の安い製品が日本に逆流してきて、日本の零細業者がつぶれようと、労働者をクビにしようと、大手繊維メーカーにとってはどうでもよいのだ。さらに、繊維産業そのものが構造不況業種として整理されようと総資本にとってはそれでよいのだ。

しかし、女子労働者はこうして真先に切り捨てられ、あるいは低賃金にしばりつけられる。そして、韓国や東南アジアの日系繊維工場の女子労働者たちは一段と苛酷な労働条件で働かされている。「女工哀史」は輸出されているのだ。私たちが何気なく身につけるドレスや晴着が、彼女たちの手で織られたことを考えたことがあるだろうか。

日本の企業が、海外で何をしているのか、その国の民衆に対して、女性に対してどう関わっているのか、私たちはただ知っているのだから。企業側は国際化しているのに、私たちの目は国の外まで届かない。しかし、戦争中、日本軍がどんな残虐なことをやったのか、国民は知らされず、侵略に加担した暗黒の歴史を思うとき、今、私たちは経済侵略の実態を知らなければと思う。

そこで、まず、繊維産業を追って、私たちの日々の生活が、アジアの人々、とりわけアジアの女たちといかに深く関わっているかを知った。日本企業の海外での行状を、女の眼できびしく追いつけた。

一九七八年三月一日

アジアの女たちの会

『アジアと女性解放』編集グループ

「女工哀史」を輸出する日本繊維産業

——阪本紡績を追って——

「私たちを助けて下さい」——韓国の日系企業、邦林紡績の数千人の女子労働者たちが、苛酷な労働を強いられ、抗議の声をあげていることを伝えたのは昨秋でした。その親会社である阪本紡績について、私たちは調査を始めました。この泉州地方最大の繊維メーカーでは十余年前に、日韓条約反対、金鐘泌会社見学阻止の闘いなど、韓国への企業進出に抵抗した歴史があることを知ったのです。しかし、こうした日韓労働者の芽を摘みとって進出を強行した阪本紡績は倒産、進出先の邦林紡績で、女子労働者たちが立ち上っているわけです。

私たちの調査を中間的にまとめたところに、韓国教会女性連合会の孔徳貴会長から、邦林紡績未払賃金対策委員会委員長として、日本女性に訴える手紙が届きました。日韓両国の女性が、期せずして、それぞれの場で、自分たちを抑圧するものはだれか、共通の闘いの相手を手探りで調べていたことがわかったのです。この呼びかけに答えて、こんどこそ、資本によってひき裂かれていた両国の女子労働者がつながりを深めたいものです。

(経済侵略グループ)

たった三ヶ月の間に、二千通以上の手紙を送りつけたのである。これに対して、組合側は、抗議団を作って抵抗した。以前は「反総評攻撃」であったのが、こんどは、「反共攻撃」と変わった。しかし組合側はひるまず団結して、アカ攻撃をハネ返していった。

☆韓国進出に抗議したが……

一九六一年に軍事クーデターで政権を取った朴は、強権政治で工業化方針を打ち出した。こうした中で、在日韓国人で成功した、阪本紡績資本に目をつけ、韓国に進出して経済発展に協力させようと、一九六二年金鐘泌を見学の名目で訪問させようとはかったが、労働者に阻止されてしまったわけだ。しかし、会社側は、韓国進出の方針は変えず、まず常陸紡績精梳綿機を撤去して韓国に移転するという。これを知った組合側は次のような抗議文を出した。「私達は戦争を挑発し南北朝鮮人民の統一を妨げ南朝鮮を再び植民地化し、人民弾圧を企画するアメリカ帝国主義と日本支配層のすすめる日韓会談に反対し、その完全粋碎のために全国の働く仲間と共に闘っていることは周知のとおりであります。この様な極めて危険な日韓会談に関連して阪本資本の韓国進出のニュースは、今日各民主団体の機関紙を埋めています。私達阪本紡績労働組合もこのような風評を聞く毎に非常に遺憾に耐えません。(以下略)」

しかし、会社側はこうした抗議に対して、「組合には関係ない」と無視して強行した。そして一九六三年、韓国の泰昌紡績を引き受けて、邦林紡績(出資率八五%)を設立し、操業を始めた。これには組合側はどうすることもできなかった。さ

らにまた一九七三年には番目の進出工場として韓国最大の綿紡織一貫工場・潤成紡績(資本出資率百%)を設立操業した。しかし、翌七四年二月原因不明の火災が起こり、百二十億の火災保険を掛けていたが、保険会社の支払能力が、七〇億しかなく大損害を受けた。その影響を受け、日本の阪本紡績は、一九七四年九月不渡手形を出し、債権総額六百億を出して倒産した。大口債権者トーマン百億、伊藤忠二十億、その他銀行などである。商社の債権額は潤成紡績機械設備代金という。

しかし、組合側は、会社更正法適用闘争を一年にわたって行ないかちとったが、人員整理で今は、従業員は臨時をいれてもやつと六百人に減ってしまった。

☆引き裂かれた日韓労働者

韓国に進出してから一時は韓国十大財閥の一つとさえいわれるほどになった阪本紡績が、日本では倒産してしまっただけで、高度成長期に無計画に上げた不動産やレジャー投資が石油ショックで行きづまったうえ、二百億円近く投資して作った潤成紡績が火災で損失を受けたことが引き金になったといわれるが、そのほかに、多額の政治献金も原因だという。倒産後阪本紡績の管財人が三十五億円もの使途不明金があることをつきとめたが、それは、朴政権関係者や日本の親朴政治家などへのワイロだともいわれる。阪本紡績の内情に詳しい大阪在住のある在日韓国人実業家は「結局、朴政権につながる韓国人と、日韓ロビーの日本人政治家に食いものにされて、つぶれたんです」と阪本紡績と日韓癒着の黒い関係を指摘する。

阪本栄一社長は、戦前日本に来て、帰化した人というが、阪本紡績で財をなしたため、軍事クーデターで政権をにぎった朴大統領に目をつけられ、財務担当者として朴政権を支えたという。また姻戚関係を通じて人脈的にも、阪本一族は朴政権と密接に結び付き、阪本社長は日本と韓国とをまたにかけた経済、政治活動をしていたわけだ。しかし、倒産後、一九七六年に急死したあとは、韓国に進出した企業も副社長から昇格した韓国人社長が経営を牛耳っており、阪本一族はもはや発言権はないという。

このため、日本の阪本紡績再建の可能性は薄いという状況だが、労組としては、それでも生きるための闘争を続けている。「韓国に投資した巨額の債権をちゃんと回収もしないで、労働者をクビ切りするのはおかしい」というわけだ。事実、昨年は韓国から十一億円の配当金が送られ、今年は十六億円のはずだという。しかし、こうした配当金は、邦林紡績、潤成紡績の女子労働者たちが低賃金で搾取されてひねり出されるものであり、ここでは、日本の労働者と韓国の労働者が利害対立させられるという関係となっているのだ。それは、根本的には、阪本紡績資本が、日本国内で労働者からしぼり取った金を韓国に投資し、そこでまたしぼり取るということであり、無謀な経営多角化、火災、政治献金といった経営の失敗がなければ、阪本紡績はさらに利潤を求めて、低賃金労働力を利用した事業を拡張したであろう。阪本紡績の盛衰の歴史は、企業の海外進出と、国境を越えた労働者の闘いの関係を考える一つの手がかりとなるのではない。

(須田幸子・松井やより)

私たちの血と汗を奪っているのは誰か？

——韓国から日本の女たちへの手紙——



孔徳貴さん

日本は最近、世界資本主義の宗主国、米国の貿易取引で、七七年度一年だけでも貿易黒字約八〇億を達成するに至り、遂に米国との貿易戦争が起っていると聞きます。こうした華やかな報道に接するにつけ、韓日関係のもうひとつの暗い恥部をあらわにしなければならぬことを大変残念に思います。

けれども、私たちは他でもなく、新年早々からこのところ起っている韓日問題がよい方向に解決するよう望んでおります。それは大げさな問題ではなく、我が国にくらすかよい若い女性勤労者たちのことです。

我が国には邦林(パンリム)紡績という企業があります。この企業は、名義上は日本に住む我々の僑胞(在日韓国人)のものだとされていますが、実際は日本人たちがその会社の株を八五%以上もっているといわれています。そして、たとえその株式の持主が在日僑胞だとしても、彼らの経済的地盤が日本資本主義圏に属しているならば、それは明らかに日本の財産であると思います。

何しろ邦林紡績がこの地に足をふみいれ、成長して行く過程は全くわけのわからないものです。

邦林紡績の元々の母体は泰昌紡績でした。一九六三年のはじめに在日僑胞徐甲虎という人の名義で泰昌の肩代りをした当時、泰昌の財産評価は韓国ウォンで約四〇億ウォンでしたが、徐氏はこれを九億ウォンで肩代りしたのです。その上、徐氏がこれを肩代りした金は我が国の産業銀行で融資した七億ウォンとその他の銀行からの融資であり、自分の金は一文も出していないという、驚くほどの特恵を受けているのです。それだけではありません。徐氏は、日本では斜陽産業で何の役にも立たぬ紡績機械を我が国に持ちこむ際、いわゆる財産搬入法(海外僑胞)によって無関税の特恵を受けました。続いて我が国の公金利よりもひどく安い金利で一千億ドルの現金借款を受けており、また六七年には、邦林紡績の企業活動外に絹織物密輸の事実が明るみに出て世間を驚かせました。こうして邦林紡績は特恵密輸財閥という烙印を押されました。そうしながらも、邦林は、我が国に上陸して以来、十年たないうちに、財産が約四百倍(七二年現在)にふえ、勤労者六千名の大企業となりました。

しかし、邦林がこのように幾何級数的に大きくなることができた決定的な方法はもうひとつあって、それは我が国の勤労者に対する苛酷な勤労搾

取です。

我が国は法によって労働三権が禁止されており、特に外国人投資企業体に限って労働運動の自由が全く認められていません。八時間労働などを規定した勤労基準法がありますが、企業主たちはこれを守りません。

邦林紡績の勤労者たちの場合、彼女たちは、日本の勤労者の最低賃金の五分の一という安い賃金で働きながら、一日十時間以上の労働を強いられています。彼女たちの訴えによれば、作業場で働いている間には、お手洗いにいくひまもなく、御飯を食べるひまもないので、食事をぬいてしまふことも始終であり、時にはお手洗いにいくはずばかりをぬらしてしまうこともあるという惨めな有様です。その職場の環境は摂氏四〇度前後の暑さの中で、食事でもできず、疲労のあまり、ちよつととうとうと居眠りでもすると、監督のするどい目つきでにらまれ、おさげをひっぱられたり、こづかれたりがしじゅうなので、勤労者はほとんどが「タイミング」という眠気ざましの薬を常用しています。それもはじめは一粒で効果がありましたが、次第に服用量をふやさねばならなくなり、このため若い女性の身体に異常が生じ、これを常用した女性勤労者が結婚した後には、奇型児も生れたということです。

こうした苦しい作業時間は、一日で終るのでは

孔徳貴

ありません。一週間に一度の休みである日曜もなく、苦しい仕事を毎日続けねばならず、一月に一度女性に与えられることになっている生理休暇がことばだけであるのはいうまでもありません。祭りがきても、家や故郷に帰ることもできず、一年間に休む日はせいぜい五、六日だけです。

これに対し、邦林紡績労働者たちは、動物でも休ませながら仕事をさせるし、食べさせるのに、こんなことがあり得るかと思われ、やたらに殴りつけ、脅迫し、不当解雇をし、解雇する時には一銭の退職金も支払いません。

米国であれば、百年前、日本でも約七、八〇年前にはみられたこの悲惨な環境と圧迫の中で、それでもなお、生きるために最後の力をふりしぼっている年若い労働者たちは、どのような環境に育った娘たちなのでしょう。

「私の故郷は全羅道の田舎ですが、ひとつねの土地もなく、父は他の家で下男をし、母は野菜を売って、私たち八人兄妹を育てました。そして貧しさに苦しめられ、三度の御飯もろくに食べられずに大きくなりました。国民学校も、出席するしかないで卒業した後、光州で女中奉公をしました。ソウルに出て来ました……しかし、いざ就職しようとなると、年令が足りないでだめだ（一六才）といわれました。そこで私はしかたなく、姉の名をかりて、三年前に邦林紡績に就職しました……私が工場として

いる仕事は、糸を運搬する運搬工ですが、この仕事は本来男子がする力仕事なので、うちの会社では女子にさせる代りに、一日あたり、八〇ウォンずつ余計にくれます」（ソン・ジョンイム「私を助けてください」シアル・ソリル民衆の

一日あたり八〇ウォンずつといえ、ラーメン一杯の値段、バスの切符二枚の値段にしかあたりません。けれども、それだけでも余分に稼がねば暮せないというこれらの若い労働者たちを、1、定時出退勤を守れ 2、法定休日を守れ 3、残業手当（一日二時間ずつ三年間分）を出せ」など十四カ条の要求に加担したとして解雇してしまいました。それも年若い労働者が漢字をよめないのを利用して、無条件で印を押せといつて、印を押すとそれが、本意でない辞表だったといっています。もちろん残業手当はさておき、三年間勤務したものに当然与えられるはずの退職金も、一銭も与えられませんでした。こうした言語道断なひどい業主がどこにあるのでしょうか。

これに対し、私たち韓国の在野良心的民主回復勢力は、総団結して、邦林紡績の残業手当一六億ウォン獲得対策委員会を構成し、猛烈に、この悪徳日本財閥と戦っています。けれども、韓国に進出した日本財閥の横暴はこれだけではありません。去る六五年、韓日協定が強制的に締結されたのち、日本は経済協力という美名の下に韓国経済を、① 日本に編入させる基礎作業を固め、② その次に日本の公害と公害産業の輸出地域として利用し、③ 日本の斜陽産業、消費産業そして観光地帯として利用して来ました。

報道によれば、七六年、韓国の対日貿易赤字が一二億九千万ドルでしたが、去年、七七年中、わずか十一カ月間だけでも、一六億三千万ドルにふえました。これは、韓国が毎日に日本の商品市場に編入されつつあるという具体的な実例です。また、

日本では住民たちの反対で設立が不可能だった石油貯蔵庫が我が国の南端、巨済島（コジエド）に建設中であり、最もひどい公害産業のビスコース（繊維・セロファンの原料）工場を韓国に輸出し、最近では火で燃やしてもまだ公害が残るという産業廃棄物を韓国に輸出したのが日本です。

親的な朴政権が、馬山輸出地だといって日本企業の誘致のために、我が国の国民のふところを掠めて造成投資をし、外資特恵を与えると、潮のよせるように押しよせて来たのは、我が国の関連産業の育成に何の足しにもならない消費産業ばかりでした。このため、我が国の民族経済は日毎に、自立も失われつつあり、全韓国の労働者は、日本の独占資本の一方的な収奪の棒に押しこめられ、最小限の人間の生活すら奪われています。

朴政権は昨年の観光収入が三億六千万だと誇っていますが、昨年の観光客約百万名中の約七割が日本人たちであり、この収入は、彼らが韓国を遊び場とし、あるいは韓国の女性をおもちゃとしてふりまいた不正な金です。

いったい日本には良心もないのですか？ 日本には男女の純潔もないのですか？ 日本のお母さんたちはいったいどうして男子に対する純潔教育を、そのように間違えられたのでしょうか？ もちろん、我が国では、こうした朴政権の反民族的、反人間的、反労働者のなやり方と戦っていますが、日本にも私たちと同じ良心の波瀾が生じていることを私たちはよく知っております。私たちは日本の腐敗自民政権と腐敗朴政権が不当な韓日関係を隠蔽するつもりで、ソウルの地下鉄車輦の取引でおよそ二五万ドルのわいろを贈ったという事実が暴露されたことも知っています。

今や、こうした韓日関係のみにくい裏取引は新しい角度で掘り起されねばならない——即ち、韓国労働者の人権問題、韓国人全体の純潔と道徳問題など、従って邦林紡績の労働者問題、未払労賃獲得闘争などが日本の独占資本対韓国の労働者及び日本の良心的勢力との戦いに発展しなければならぬという必要を感じます。

私は特に、ひとりの女性として、日本の女性たちの力を期待します。女性の決断によって、男性の無謀を指摘し、友邦としての深い交わりをもつことを願いながら次のように要求します。

1、邦林紡績の富は、みな韓国女性労働者たちの血と汗を奪ったものであるから、この富の所得

再分配のため、日本の女性たちは日本で蹴起して戦え。

2、韓国労働者の苦痛と被害はすべて韓日両国政権の結託の所産であるから、日本のあらゆる良心勢力はこの絶えざる癒着を断ち切り、韓国労働者の人間らしい生活を回復させよ。

3、韓国に進出したあらゆる公害産業を日本に連れ戻す闘争を展開し、日本男性の韓国観光を即刻中止させ、韓日両国民の純潔を守る闘争に、日本女性は躍起せよ。

一九七八年一月一六日

（訳・清水恵美子、山口明子）

私たちががんばらなければ……

「日本財閥」邦林紡績の富を女子労働者の手に奪い返そう——。日本側でようやく進出企業追及の動きが緒につこうとしているとき、海を越えたアピールが私たちの手もとに届いた。正直にいう、これをもっと有力大企業であればよかったのという思いである。

日本では（偽装倒産ではないかとの声もあるが）すでに倒産し、こちらでも、六百人余りの最後まで残った労組員が、未払賃金獲得のため戦っているという状況では、つきあえたこぶしを空しくおろすような中途半端な思いである。

阪本紡績は、わずか二十年足らず昔には、日本の戦後における「女工哀史」の代表的存在であった。二十四時間二交代操業。残業手当はろくに支払われていなかった。文字通り血を流しての争議

の目標のひとつが、十時間労働だったという。これでやっと深夜四時間だけ機械が止まることになったのだ。こうして築きあげられた労組。これまでも果敢な戦いをしてきた職場の働く女性たちが、倒産によってさらに被害を受ける立場にいる。

邦林の女子労働者と阪本の女子労働者は本来、だれよりも親しく、その苦しみも喜びもわかちあえる仲間たちであるはずだ。それが倒産という状況の中で、利害が対立し、お互いに相手を食いあうことになかなかね状況にある。日本の女たちと、韓国の女たちがやっとな手を握れそうだというのに、資本はそれを分断してしまおうというのか。

構造不況の中で、だが、本当のところ、韓国の女子労働者と私たち対日本の資本の関係はどうなっているのだろうか。会社更生法とかいう法律は

世界の海外会社数と生産高

企業名	海外関係会社数	海外生産高
東レ	54 (10)	507 (2)
帝人	33 (21)	410 (4)
東洋紡績	24 (9)	143 (10)
鐘紡	18 (11)	150 (9)
ユニチカ	16 (4)	74 (17)
旭化成	15 (6)	104 (14)
数島紡績	7 (5)	66 (21)

アジアの国別進出企業数

企業名	韓国	台湾	香港	フィリピン	タイ	マレーシア	シンガポール	インドネシア
東レ	3	1	1	1	2	2	1	1
帝人	1	1		1	2		2	1
東洋紡績					1	1		1
鐘紡	1		1		1			1
ユニチカ			1			1		
旭化成	1	1						1
数島紡績					1			

資料は東洋経済新報社「海外進出企業総覧1977/78」度版

だれのためにあるのか。鳩のようにやさしくあるために、まず蛇のようななすどさで、彼女たちと私たちの共同の敵を見きわめねばと、便りを前にして私はまず考えこんでしまふ。けれども、韓国の女性たちも、邦林との困難な戦いの中で、ようやく自分たちの戦いの相手が、日本経済圏に属する資本であることをみつけどし、私たちによびかけたのだと思うと、私たちが、ただ手を束ねてはいられない。何か、とっかかりを探り出して、ともに立ちあがらなければ。

彼女たちのよびかけは、デモのシュプレヒコールそのままの叫びである。「……に協力下さい」でもなければ「ともに……しましょう」でもない。それは、安閑としている日本人への鋭い告発なのか、あるいは、私たちがすでに戦う同志とみてのよびかけなのか。何れにしても、韓国の女性たちの相互の関係は、もはや、きれいなこととの交流の段階を越えて、行動をふみ出す時だ。（山口明子）

タイの女性と日本企業

1977年11月16日「女大学」より 報告者 湧井由美子

現代女性問題（主婦論、家事労働論）を勉強していくうちに、日本の明治以来百年の歴史の中で、日本の女子労働力がどのように使われて来たかに興味をもった。

「百年の女子労働の歩み」の中で、「日本の家族制度が近代化、産業化の歩みの中で特殊な女子労働の使用のパターンを作っていた。現代の女性の労働力が一方に家事労働にとじこめ、他方では状況に合わせたパート化、不況になれば首切り、という安易な使いすの労働のパターンが固定化されてきている」といっている。

この型が日本固有のものなのか、産業化がもたらす歴史的必然のパターンなのかという問題を明らかにしたいと思うタイの女性問題に取り組んだ。

一般の報道ではタイの女性の地位は非常に高いといわれている。タイの女性の地位の高さを示すものとして、大学教授の数の多いことが上げられる。（チュラロンコン大学で千六名中八百二十三名が女性）大学の学生数でみると女子の学生数はほぼ男子と同数。男女差別はない。（もちろん大学に進めるのは国民のごく一部である）。

教育の面でも、アジア各国における初中学校の全生徒中にしめる

女子の比率ではタイがとくに高い。中学校の教師の58%までが女子。管理職、大企業経営者にも女性が多い。

婦人の社会労働への参加率も非常に高く、ジェトロの資料の中で労働力率は81.4%と高く米国の26.6%をはるかにこえている。

女性の社会進出は早い分以前から、これはタイを訪れるヨーロッパ人も強い驚きを示している。さらに社会生活上では男尊女卑の慣行はなかった。これが60〜70年以降の農村崩壊の中で大きく変わってきた。それはなぜかというところ……

タイ社会は古くは妻の方に居住し、土地は均分相続で、末娘に家屋、宅地を相続させる、核家族の形をとる。それが全世界的に米がだぶついていると一戸あたりの農業経営が苦しくなる。

商品経済がタイ社会に入ってきて現金支出がふえ、生活が苦しくなる。米づくりに化学肥料、機械などが入り近代化するにつれ、経営資金がかかる。人口増加、均分相続により土地が細分化され、自作農が没落し、大土地所有がはじまる……ということ人口増に伴ない、農村の貧困化が急激に進む。

農村の90%までが赤字経営となり、農外収入にたよらざるを得なくなり、都市へ流れていき工場労働者となる。

出稼ぎ者の数は多く単身の青年が多いが、既婚者の場合は夫だけという例はなく、一家をあげて都市へ流入する。

その結果、男子は製造業、女子はサービス業に従事する。

いまここに、近代的
大企業労働者の標準賃
金表がある。

表は日系企業の労働者の賃金表であるが、この中の繊維をみても明らかに男女差はある。しかし事務系においてはほとんど賃金差はみられない。エリート女性においては男女差はないが、肉体労働者にあつては格差がある。

タイ社会には男尊女卑思想がないといわれているが、進出した日系工場の労働者にはこのような差別賃金を持ちこまれている。繊維に関しては、労働の型も深夜を含めて三交代制、寮生活など日本の方式がタイにも導入されている。この問題をどう捉えていったらいいのか。

現在の女性の地位は……エリート女性に差別はないが、民衆レベルでは非常にきびしい。そして慣行上、男性には妻子を養うという意識も責任もなく、女性が一応の経済の支え手である。

子供は一人の人格として小さい時から自立し、母親が子供をみるという慣行もないので母子関係も日本のようにつながりがない。従って離婚率は高い。自殺率も高い。

男女平等の観念を支えていた農村秩序が破壊され、男女平等の思想のまま近代化を進めていった時、女性の地位はどうなるか。産業化はタイ女性にかえってきびしい状況をもたらしている。

日系企業の標準者賃金

単位：バーツ

	男子小学7年労働者	女子小学7年労働者	男子中学12年事務系	女子中学12年事務系
繊維	24.2 (日給)	20.1 (日給)	1,296	1,150
金属	26.0 (日給)	33.3 (日給)	1,110	1,125
自動車	730	557	1,212	1,221
電気	535	493	1,116	1,187
食品	657	610	812	832
化学	644	595	1,215	1,147
平均	677	543	1,190	1,147

★バンコク日本人商工会議所「第2回進出企業労働調査報告書」1971年

東レ・帝人の海外進出パターン

— 学習会である研究者の話を聞いて —



坐り込みで排除されるタイの女子労働者

東レと帝人は一九六〇年代に入って海外進出に乗り出し、東レは五四工場、帝人は三三工場（一九七七年現在）を世界各地に持っている。両社とも圧倒的にアジアが多いがとくに東南アジアを中心にした進出パターンはかなり対照的だ。

東レはタイ・マレーシア・香港、帝人はタイ・フィリピン・インドネシアを拠点としており、タイでは両社がクロスしている。タイの繊維産業には、ブラマーン、スクリー、キッチャ、TDTという四つの民族資本グループがあるが、資本、製品、人的系列などをたどると、頂点には東レ、帝人が立って全体を支配している。

帝人は原料供給を独占することによってタイの繊維産業全体を牛耳るという基本戦略をとり、タイ帝人ポリエステルというポリエステル製の巨大工場を作った。タイだけでなくフィリピンでもインドネシアでも原料の七〇%以上を供給している。

このように、帝人は各国の繊維原料部門の自給化、東レはTALと組んでの日本型多国企業方式と、海外進出戦略にかなりの違いがあるといえる。初めは、原料をおさえている帝人が強かったが、ポリエステルに依存し過ぎたため、最近値段が高いという不満が出ていることもあって、苦戦している。東レは、原料を帝人から買うといった依存的立場にあつたが、繊維不況のもとでは、種々の工場を持っているため、状況に応じて小回りがきき、最近タイでは七工場のうち一工場だけ撤退するといった対応策をとっている。

以上、東レ、帝人の東南アジアに対する進出パ

ターンをざっと見たが、韓国などとの違いもある。タイなどは、売っている自動車の九割以上が日本車というように、外国の商品に完全に占領されるという異常な状況だが、韓国は政権としても、外国からの自立を求める方向で、最初は日本の資本や技術を受け入れても、それを自分のものにして日本を排除していく政策をとっている。この点、タイをはじめ、東南アジア諸国では、技術にしても経営管理にしても自分のものにする努力よりも、利益をあげればそれでよいという傾向があり、日本の企業の進出へのカベは厚くない。最近、韓国の繊維製品が日本の市場に流入してきて、日本の繊維、とくに中小繊維メーカーにとって脅威になっている背景にはいろいろ事情もある。

もう一つ、進出の動機という点で、東レ、帝人のような大メーカーと中小企業との違いがある。中小企業はズバリ低賃金労働力目当てという場合が多い。たとえば、タイで、日本人経営者が労働者からきびしい糾弾を受けて、工場を放り出して逃げ出すという事件が起ったサラブリ・ジュートミルという日系企業は、親会社日本製麻という中小企業で、低賃金を目的にタイに工場を作って、製品は全部日本に輸出していた。約千二百人のタイ人労働者は搾取に抗議してストライキをやったわけだが、日本製麻はさっさと撤退して、インドネシアに拠点を移してしまった。

東レ、帝人の場合は、低賃金労働力というより、市場確保がねらいで、その国の繊維産業を完全に支配してしまうやり方をとった。タイはその典型であった。

（二月二十一日 文責・経済侵略グループ）

インドネシアに文化はないか？

日系企業で働く女性たちのつづき

— マレーシアからの報告 —

国立マラヤ大学

上田真理恵

日本の商社企業で「海外に赴任するならどこがいいか」とアンケートをとったところ、第一位がクアランプールで、ニューヨークを抜いていたという話を聞いたことがある。事実、マレーシアに進出している日系合弁企業は全業種を含めて二百にのぼるといふ。出資率百分から一・九％まで、規模もさまざまだが、日本企業のマレーシアへの進出意欲は盛んだ。

アジアの国々には、どこへ行ってもスラムがあるが、クアランプールにも、中心街から少し離れたところにマレー人のスラムがある。鉄道線路沿いに小さな木造の小屋が所せましと並び、不法占拠なのでもろろん、水道も電気もなく、住居表示もないので郵便配達も来ない。非合法ではあっても、現実には多くの人が住んでいるので、数年前、政府が水道を引いたため、スラム全体で蛇口が三つほどできて水を汲んでくことはできるようになったが……。

私の友人ラスマも弟と二人でこのスラムに住んでいる。

今二十七歳の彼女はカンボン（マレー人の村）の生まれで、高校を卒業すると職を探しにクアランプールに出てきて、タイピストとして働いている。彼女の話では、このスラムには日系企業で働いている女性がたくさん住んでいるというので行ってみた。会はずだつた三人の女性は三交代制の工場

で働いていて、その日はあいにく午後三時から深夜までの勤務ということであんなに会えなかったため、電気関係の日系工場に働いている別の女性に話を聞いた。

彼女は田舎で家政科の職業学校を出て、十七歳のときクアランプールに職を探しに来た。最初は友人の家に身を寄せていたが、今は伯父さん一家とのスラムに住んでいる。彼女の月給は四・六マレーシアドル（四百六十円）、一週間六日制で朝八時から五時まで働いて一カ月の収入は本給と特別手当を含めて百三十五（一万三千五百円）。会社の送迎バスはないので一カ月のバス代が一二（千二百円）。昼食代四〇（四十円）は会社が出すので何とか暮らせる。公休日は国の祭日以外は年に七日。仕事の内容はごく単純な作業だが、残業もある。工場の規模は大きい、同じ工場地区に給料と条件がもっとよい日系企業があるので、募集があればそちらへ移りたいという。彼女の工場は日本人は三人だけであとはマレーシア人の人事マネージャーと数人の管理職、それに大部分は二十歳前後の女子労働者という構成になっている。マレーシア政府の政策で、現地人をマネージャークラスに採用しなければならぬことになっているが、女性を管理職に登用している日系企業はほとんどない。

ところで、参考のために、マレーシアの賃金水準を紹介すると、やはりこのスラムに住んでいる現地企業の電話交換手は週六日制で朝八時から五時まで働いて月百二十（二万二千円）。彼女が以前中国人経営の洋服屋で縫い子をしていた時は食事ベッドつきで月六〇（六千円）。またマレー人のパティック工場に働いている勤務七年の二十七歳の男性は月三百（三万四千円）だが、一般の女性は八〇（八千円）から百（一万円程度）という。一方、国立マラヤ大学の寮の掃除婦の十八歳の女性も臨時採用だが三食ベッドつきで月百三十（一

万三千円）。本採用なら三百（三万四千円）なので民間よりかなりよい。こう見てくると、日系企業の賃金は、小規模な現地民間企業より少し低い。しかし欧米系企業に比べるとまだまだ低い。労働時間もアメリカ系企業は週五日半つまり土曜日は半日なのに、日系企業は一日八時間週六日制で長い。マレーシアでは、高等教育を受けた女性には社会的に目ざましく活躍し、政府機関、一般企業、教育機関などで、日本に比べて責任のあるポストで、意欲的に働いている。しかし、その反面、高等教育を受けられずにカンボンから出てきた特技もない女性たちは、クアランプールなどの都会へ出てきて工場労働者となって働く。大卒者が男でも女でも、初任給九百（九万四千円）から一十（一十三万四千円）の対照的に、彼女たちは低賃金でギリギリの生活を強いられる。現金収入の少ないカンボンで生まれ育った彼女たちにとっては、たとえ一カ月六〇（六千円）というわずかな収入でも魅力があり、ラジオやテレビの普及で、閉鎖的なカンボンから華やかな都会へ連れ出され、工場の門をくぐる。その労働がこの国ではわずかに月百三十（一万三千円）で得られるとしたら、日本の企業にとつてはやはり大変魅力があることだろう。安価な労働力を求めて、日系企業は今後ますます進出してくるに違いない。

しかし、日系企業で働く女子労働者たちは、もっと給料をあげてほしい、休みをもっとほしい、と小さな声でつぶやく。マレーシアの男性たちは現地人をもっと管理職に登用せよ、と経営についての要求が多いが、現場で働く女性たちの要求はもっと具体的に生活を守ろうとする切実さがある。彼女たちのつづきやきが声になり、対等に物がいえるようになる日が来ることを願わずにはいられない。そして、日本の働く女性たちと、つながりが持てるようになったら、すばらしい力になるだろう。

一九七六年三月までの、日本の発展途上国に対する直接投資累積額は、インドネシアが最も多く一七億七五〇〇万ドルと一位を占めている。ついでブラジル、サウジアラビア、韓国が続いているが、韓国は五億八八〇〇万ドル、日本はインドネシアに対し韓国の三倍強の直接投資累積額をもっていることになる。

石油産出国であり、豊かな資源に恵まれたインドネシアに、「先進国」からさまざまな「援助」がなされているが、日本からの「援助」が最も多い。私が住んでいた西ジャワの州都バンドン周辺には、カネボウ、トーマンと現地資本の合弁会社K T S Mなど多くの繊維産業が進出していた。

金の流れ、物が流れ、人がそれにつれて動く。今、インドネシアの首都ジャカルタには常時五千人以上の日本人が滞在している。家族連れの長期滞在者も多く、ジャカルタに日本人学校が設立されたのは一九六九年、帰国しても、日本の進学体制に遅れないようにという教育を懸命に行なっている。

こうしたインドネシアに住む日本人の子どもに接して、奇異に感ずることが多々ある。まず、インドネシア人のことをほとんど例外なく「ネシア人」（インドネシア人に対する蔑称）と呼び、「ネシア人は汚い」「ネシア人は怠け者だ」「ネシア人のカンボン（住宅密集地域）

は汚いから、絶対近づかない」と語る。「ネシア語なんか習っても仕方ないから英語を習う」と言う。「ネシア語」はできないし「生活水準」も違うので、遊び相手は、日本人同士、それにオーストラリア人、ドイツ人、アメリカ人などに限られてくる。日本人の子どもはインドネシアで生活している、インドネシアの子どものが全然視野に入っていないのが現実なようだ。

ジャカルタの日本人学校で出している「南十字星」という文集に次のような作文が収録されていた。

「インドネシアという国はこじきがいっぱいありました。いるというのはいっぱいあるのではありません。ありみないにいっぱいありました。それから心がきたない人ばかりでした」「インドネシアはこじきが多いので気がわるい。それからインドネシアは悪い人間なのでいやだ」

小学校二年生の作文の一部である。四年生の作文はもっとはっきり次のように述べている。「この人は、やろうと思えば何でもする。たとえば人殺し、泥棒などもする」「インドネシア人の特徴はお金さえあれば何でもする。よくうそをつく。そのうそがばれたりすると言いわけをする。それがインドネシア人の特徴である」

こうした内容の作文が学校の文集に収録されて、何らあやしまれない。それは、この作文を見て、先生方も、父母も何らかしいと思っていけないからであろう。親や日本人社会のもつインドネシア観が、子供のなかにそのまま反映されていると考えてよいだろう。

「滞在四年近くになり、文化のないこの国での生活は三・四年が限度であると言ったのが帰国を目前にした一父兄の実感である」

日本人学校PTAのある母親は「ネシアに文化はない」という。教師は「人間の社会関係で最も重要な信頼と責任がこの国では見られない」と言

う。自分の接するごく狭い範囲のインドネシア人限られた体験から、日本人はインドネシアの全体像をつくりあげていく。新聞を読ま（め）ず、ラジオも聞か（け）ず、テレビも見ない生活のなかで、日本人の間の口コミだけが異常に発達する。噂が噂を呼ぶ。自らがつくりあげたインドネシア人像におびえ、寄り集まっていけないと不安な日本人は、男も女もどこへ行くにも団子のようになつて動くことが多い。

多くの使用人にかしずかれた日本人の奥さんたちは、昼間から金を賭けてのカードに打ち興じ、ワイ談に花を咲かす。子どもに、「お母さんは毎日何しているの」とたずねたところ「マージャン、ゴルフ、テニス」のこたえがかえって来た。毎日暇をもてあまして日本の奥さんたちは、連れだって買い物、おしゃべり、賭け事に余念がない。子どもたちのなかに働く母親のイメージが失われ、親のふりから、現地人をあごで使うことを無意識のうちに覚えていく。公共の乗物、バスやミニカーなどには乗ったこともなく、運転手つきの車でなければ外出できない日本人。こんな信じがたい日本人のあり方が、今、アジアの国で生まれている。

戦前、朝鮮など植民地の日本人町で、子どもたちは日本人が働く、それも肉体労働をするなど信じなかったという。敗戦後、日本に引き揚げて来た植民地育ちの子どもが「日本人が労働している姿をみて驚いた」という。

五〇〇〇（日本）対一五〇〇（インドネシア）という一人当り国民所得の絶対的なひらきの上に、今、日本人は東南アジアで、かつての植民地の日本人町と同じような生活をつくりだしている。「ネシアには文化がない」というその驕りの姿勢が続くかぎり反日暴動はくりかえし起こるだろう。

（内海愛子）

日本の繊維の女たち

プレタポルテの職場から

原宿のブティックにはトップ・モードがさがり、デパートには世界の高級プレタポルテが並び、青山のオートクチュールには20〜30万円のドレスが飾られている。これらの美しく高価な商品の縫製者は工賃をいくら貰い、どんな状況で仕事をし、どんな問題をかかえているだろうか。

私は外国のある有名ブランドを買い日本で製作販売をしているプレタ会社の下請工場に働いている。

工賃について10万円のドレスの例をあげてみよう。生地代が約半分を占める。残り5万円の3割をプレタ会社とする。残り7割の半が工場経費、裁断代になり、縫製者には約2万円程度。一着の製作に4〜5日かかり、月に5点くらい生産で、10万円がやっと。この級のドレスを縫うのには3年以上の経験を要する。ちなみに初任給は5万円、庶民には手のでない高級品と低賃金の間に何がかくされているのだろうか。かつてお針子さんといわれた一品製作の縫製者を通して女子労働者の問題を考えてみたい。

私の職場は30名でうち男子2名、ほとんど25歳までの女子。男子は大抵、縫製を少しして、裁断師になり、いずれ独立して経営者になってゆく。彼女たちの大半は「女の幸は結婚にあり」との社会通念を信じている。今働いているのは仮の姿と自から認めている。女子ばかりなので社会的関



心も薄く、低賃金だけに、男に食べさせてもらえる結婚に夢をたくす。責任があり重労働だけに「家事つき共稼ぎ」は諦め、結婚退職してゆく。技術者養成に時間のかかる職種では、おぼえるまでは低賃金でもしかたないと諦める。一方では技術を習得しても手仕事が多いので、経験を重ねても一定量以上には生産ががらず、収入も増えないので長く働くより、独立して小経営者になってゆく。女自身が働くのを腰かけのうけとめ、仕事か家庭かと分断して選択しているうちは、資本家に常に安い労働力を提供することになる。長くつとめる考えがないから、賃金・労働条件について真正面からとりくまなくなる。だから「女の職場」といわれる美容師・看護婦さんたちも同様に悪い労働条件から出られないでいる。

高度成長で人手不足時代になり、低賃金職種には労働者が集まらなくなると、経営者は海外からの「技術研修生」制度をもうける。一方では利潤の多い既製品に転業した。既製服労働者を踏台にして肥えた既製服資本は韓国はじめ東南アジアに出て女子労働者を苦しめている。

「富国強兵」「殖産興業」の明治政府は「女工哀史」の繊維産業の女子労働者を土台にして資本を築き、侵略・戦争へとすすんだ。

私たちは戦後も同じパターンで資本を増大させてしまった。近代日本は繊維産業からはじまったとか、経済大国の礎は女子の労働力に担うところが大きいなどのおだてにからめとられてはいけない。女子労働者を集めながら「女の幸は家庭にあり」とうたうホネネをみすえよう。女に「女らしさ」を求める根底には経済面では低賃金に甘んじさせ、政治面では無批判・無関心にさせ、社会的には上につかえることを要求している。女が女自身の問題を解決していかないと、差別されている者が自から差別を解き放ってゆかないかぎり、資本の強化に手をかすことになる。視野の狭い物とり主義的労働運動では資本を海外へ逃がし、私たちは侵略に手をかしてしまう。今、李小仙女史を先頭に韓国やアジア各地の女子労働者が闘っている。彼女たちの叫びは日本の女の生き方、日本の女子労働者のあり方を問うているのだ。パリ・モードを着ようとしているのか、アジアに目をむけて生きようとしているのか問われている。

(渡辺明代)

紡績工場に働いた日々

私が鹿児島から愛知県の紡績工場へ就職したのは昭和三十三年の春である。もう二十年も前のことになる。

その年、私の中学では四百五十名中三十名ぐら

いが就職した。

私は貧しくて争いのたえない家から早く脱け出

したい一心で、中学を出てすぐ働くということや、紡績工場がどういう所かなどとあまり考えもしなかった。

さっそく寮生活が始まった。木造二階建の長屋（木造の校舎の教室に畳が入っている）のような寮では十二畳に八人ぐらゐが一室になっていた。ふとんを敷くといっぱいの広さだ。部屋には座机と火鉢が一つずつ置かれ、洗面所は廊下に流しがついていた。洗濯場は屋外にあって、屋根のついた吹きさらしの流し場に蛇口が十個ぐらゐり付いていた。

私の配属されたのは、糸を撚って糸巻きに巻く精紡という工程だった。

工場は、絶えまない機械の音や、熱気に湿気、油やさまざまな匂いでむせかえていた。その中で一日中立っているために、足はかちかちんに固くなって痛んだ。機械にまきついた糸くずを切り取らないで、自分の手の平を力いっぱい切りつけてしまったり、無我夢中のうちに月日はどんどん過ぎていく。なんといっても辛いのは朝四時おきの早番の時である。ふとんから体をはぐようにして起きる。また、遅番の時の夜八時、九時になると体がだるくてすわりこんでしまうほどだ。

この時になって、私は始めて故郷を遠く離れていることの心細さや、中卒の女工としての自分の立場を知って暗然となった。真夜中に室を抜け出してめそめそと泣いていた。

日紡績の中に高校があった。求人対策のために茶道、華道、洋和裁などの福利厚生施設の一つとしてつくられたものだった。二交代の勤務時間のあいまに学ぶという毎日はそのうつらうつら。しかし私たちには、働きながら学ぶという意地のよう

「女工哀史」が現代に問うもの

「女工哀史」——それは大正時代の事と安堵できるだろうか？ 私たちの回りを見回せば、哀史の時代と変わらない事があまりにも多い。そして、それはあまりにも巧妙に、陰にかくされている。哀史の事実をふまえて、日本の私達、アジアの女達を見てみたい。

人買いさながらの、募集人の甘言に、貧しい農村の親娘は夢を託す。企業側は山村、農漁村の「口べらし」の若年低賃労働力吸収と、二交代勤務の強制を目的に、寄宿舎を建設した。それは、風紀上の取締りを名目にして、綿ぼりにまみれ、ずっと立作業で深夜業までやり、作業中は教婦の厳しい監督に脅えていた娘たちの休息の場である、私生活の場を舎監を付けて個人生活を剥奪する事でもあった。娘達のその後はといえば、帰郷後、結婚はきわめて幸福な例で、ある者は、売春婦となり、その泥沼で一生を終えてしまう。ある者は綿ぼりと過労で、結核に罹りおそらく一度も、幸福を感じる事なく去っていったであろう。また結婚しても不妊症であった例もある。一方娘たちを収奪した側は、母性破壊、人権無視を問われる事なく、発展を続け、ランカシャーを破るまでになり、戦時中は軍需工場に変身していく。恐るべき事には哀史時代の論理の、「女は消耗品」「産業優先策」の源流は現在も変わっていない事である。

私たちのこのまがりなりにも豊かな生活の礎は、「哀史」の娘の涙と、中国朝鮮人の強制労働の恨

みと、朝鮮戦争で流した朝鮮人の赤い血である。そして今もまた、玄海灘を越えただけの韓国では、日系の韓国企業で、低賃金、過酷な条件で、十二歳の幼ない少女から、多くの若い女たちが、あえぎ、暴力警察と労働三権を奪った国家と果敢にも戦っている。その姿は私たちに、大きな力と感激を与えてくれる。対して私は、日常生活に埋没して、時として彼女らの叫びを忘れてしまう。第三者的立場でいてはいけないと思いつつも。私達日本の女も彼女らに学び、呼応しなければいけない。同時に、韓国で労働者が低賃金で悪条件にあえば、その分だけ、日本の労働者も職場も奪われていく。最近は大島紬が、韓国に追い上げられて、大量失業の悲惨な状態がおこっている。

今、日本には一応、言論の自由がある。もうこれ以上、人の流した血や涙の上で暮したくない。過去の歴史の誤りを、「主権者」である私達はくり返してはならない。「知らなかった」といってただ被害者面をする。「共犯者」でいてはならない。今、この一瞬にも、苦しむ彼女達の叫びが聞こえてくる。彼女らと共に怒り、行動を起こし、今度こそ「女工哀史」にくさびを打たなくてはならない。

(吉川文子)

なものがあつた。そまつな施設の中で「高校だけは卒業しておきたい」という必死の思いでこの高校を卒業した。

ところが、その後事務の仕事を担当するようになってソロバンも級をとり、経験も数年も重ねているのに高卒の新入社員より私は賃金が低かった。さらに工場の人たちは私よりも低いことを知らされ、じだんだ踏んでくやしがった。



近代化された日本の紡績工場……

寮には、寮の人たちを管理・世話する寮母さんがいて、この人たちは短大卒の人が多かった。寮母さんたちの雑談の中で「あの人は高卒だと思っ
てつき合っていたらそうじゃないのね、損をしち
やった……」という声を私は偶然きいてしまった。
街に出かけると私たちは、衣料品、飲食店など
でおとくいさんであったが「女工のくせに」とい
う目があるのを決して忘れなかった。

このころの私の日記の中に「もつと素直に明る
く」というスローガンがくりかえしくりかえし出
てくる。私はこの言葉を呪文のように唱えて、い
じけてしまう自分を励まさないならならぬのだ
った。差別の一つに、貧しいだけで、貧しいため
に働く人をさげすむという差別があるのを骨身に
思いしらされた。

その後、紡績工場はどう変わっただろうか。
最近の報道によると、労働時間はほとんど変っ
ていないし、働きながら学んでいる人たちの中に

多くの職業病が発生している。そして高校を卒業
しても企業は、賃金のうえで高卒と認めようとし
ない。それらの要求を取りあげようとする労働
組合の体質など……。私の働いていた頃と少しも
変っていないことを知って、私はやりきれない思
いにとらわれる。
(脇元美智子)

むしばまれる健康

〔浜松〕繊維産業で働く中卒の少女が通学して
いる昼間二部定時制・静岡県立城南高校の女子生
徒の中に、仕事の原因とみられる腰痛やけんし
う炎などの健康障害が発生している。繊維産業従
業員が集団で学んでいる定時制高校は静岡県のほ
か、大阪府、愛知、三重、石川県などにもあり、
城南高と同じような症状を訴える生徒が多いこと
から繊維産業特有の職場環境が、勤労生徒の大き
な障害となっていることを示している。

同校は求人難に悩む浜松地方の繊維業界の強い
要望で四十年、昼間定時制高校としてスタート。
「働きながら学べる」をうたい文句に全国から生
徒を集めた。カリキュラムも繊維業界特有の二部
制に合わせる形で組まれ、生徒らは各会社の寮に
入って、会社が用意するバスで通学している。

しかし、仕事と勉強のハードスケジュールで、
体の変調や仕事の不満を訴える声も強く、昨年は
全校生徒の約一割に当たる六十七人が中途退学し
た。同校保健課のアンケート調査(対象六百六十
六人)では、腰痛、ヘルニア二七・九%、関節炎
一七・四%、けんしょう炎九・九%、難聴一三・
六%で生理不順六七・四%、通院経験ありが五二
%にも上った。全日制女子高の浜松市立高の場合

は、腰痛六・二%、難聴〇・四%、生理不順三三
%となっており「城南高生に健康障害が多いこと
は明らか」という。

この調査を行った同校養護教諭らは「紡績の仕
事は一日中立っている。しかも単調な仕事で、原
綿など重いものを持つ。また高温多湿、騒音の大
きい仕事場で健康障害は避けられない。繊維業界
特有の職業病だ」と語る。

早朝、深夜勤務の繰返し、平均五、六時間の睡
眠時間、交代時のせわしない食事などで貧血、胃
腸障害を訴える生徒も多いという。

「時間に追われる生活が空しい」「操縦された機
械のようだ」「早くあのろっ屋から出たい」……同
校生徒会が今春発行した小雑誌「暁」には生徒の
ナマの声がめんめんとつづられている。そうした
中で仕事がつらく夜逃げ同然にして退社する例も
あるという。

静岡県下には、昼間定時制高は三校あり、城南
高のほか二高は県立磐田南高、同新居高に併設さ
れている。新居高の健康調査(一六九人対象、五
十一年度実施)でも、腰痛、ヘルニア一七%、関
節炎二〇・七%、けんしょう炎三%、生理不順五
八%となっている。

静岡県以外の府県でも同様な傾向がみられる。
大阪府下の貝塚高(大阪府貝塚市)では難聴の生
徒が多い。昨年の調査によると、三年生の三五・
三%、二年生の二二・七%、一年生の一六・九%
が高周波の音がよく聞こえない、と訴えた。

このほか、石川県加賀市の加賀聖城高のように
専門医で治療を必要とする難聴の生徒が数人出て
いる例もある。

(毎日新聞・七七年十月二十三日)

「製糸労働について」

朝鮮総督府嘱託 陸芝修

朝鮮の製糸労働者数は昭和に入ってから漸増しピー
クの昭和八年には一万一千六百人、そのうち女工
が一万二千四百五十五人で九二%を占めて、どの産業
分野より女工の割合が高い。年令は十四歳から十
七歳が六一% (数工場約二千五百人を調査) で十
三歳以下の年少者も二百余人で一割近くもいる。
勤続年数は六〇%以上が二年未満で、わずか三カ
月未満が二割近くもあり、内地の製糸女工の平均
勤続三年四カ月に比べてきわめて短い。「最近新聞
の三面を賑わしている紡績女工の逃亡とを合せ考
える時、次にのべる労働条件が原因の一つではな
からうか。」

賃金は、昭和十二年の調査では成年工一日四七
銭、幼年工二一銭となっているが、これは労働者
五十人以上の工場のみで調査であり朝鮮の製糸業
は内地より小規模で片倉、郡是、鐘紡ほか三、四
の工場以外は五十人以上の工場は少ないので、賃
金全体の傾向を示していない。むしろ、昭和八年
―九年の各工場の報告から算出すると、平均四一
銭で内地の六〇銭と比べて約二十銭も差がある。
しかも、ある大工場の平均賃金はわずか二十五銭
で内地の工場では最低賃金が五十銭以上となっ
ているのだから、いかに低いかがわかる。養成工の
賃金はさらに低く、最高十五銭、最低七銭、平均
十二銭なのだ。

労働時間となると、内地では昭和に入ってから工場
法が製糸業にも適用され、一日十一時間制が励行
されるようになったのに対して、工場法がいまだ
に実施されていない朝鮮では、相当長時間の労働

植民地朝鮮に進出した日本の紡績資本

苛酷な搾取と果敢な抵抗

日本の紡績資本が朝鮮に進出したのは、一九一七年(大正六年)三井物産系の朝鮮紡織(釜山)が最初であった。すでに一九一〇年代に日本の綿製品が朝鮮市場にあふれ、伝統的な紡織業を崩壊させていたが、一九一九年の三一独立運動を背景に唯一の民族資本による京城紡織が設立されて気を吐いていたものの、三〇年代に入ると、日本の

大手紡績資本が進出をほしきまにした。東洋紡が仁川と京城(ソウル)に、鐘紡が京城と光州に工場を建設したのである。さらに戦争中には、工場疎開ということで、郡是、呉羽紡、大日本紡、鐘紡、大和紡などが続々と大規模な紡績工場を建設、敗戦時には、空前の設備に達していた。

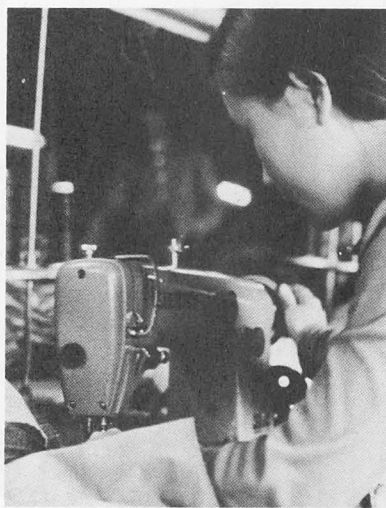
こうして朝鮮半島に大挙進出した紡績資本は、朝鮮の女性たちを恐るべき低賃金と劣悪な労働条件でこき使って利潤をあげた。あまりにも残酷な仕うちに耐えられなくなった労働者たちは、命

工たちの捨身の闘いに会社側も逮捕者を釈放したが、要求はいれようとせず、持久戦になって結局労働者側は力及ばず十日間で敗北した。しかし、この闘争を日本人社会主義者たちも支援して処罰を受けたため「罰せられてまで日本人が朝鮮人労働者の争議に参加した」と注目された。両国の労働者の連帯闘争の貴重な遺産をうけつぎたいと思

が要求されている。つまり朝鮮の製糸工場の正味作業時間は最長十二時間半、最短九時間半、平均十一時間二十分で大抵の工場が十一時間以上である。内地の工場の六一%が十時間であるのに比して相当長い。休憩時間も内地は平均一日六十六分で三回に分けて与えているが朝鮮は五十五分から六十分で、午前中に休憩時間を与えている工場は二、三に過ぎない。朝食、昼食の時間も短かく、朝六時から十二時間も働く幼い女工の疲労の程は想像するにあまりある。

「以上、賃金と労働時間を通じて製糸の労働条件を見たのであるが、内地に比すれば劣っている。つぎに寄宿舎についてみよう。年少の女工達が約十二時間にわたる激しい労働を終えて綿のようになった体を休ませる所であるからだ。内地の寄宿舎は工場付属寄宿規則の発布以来規制されているが、朝鮮にはこのような規則はなく、内地より不完全であることをまぬがれない。部屋のはきは長野県製の製糸工場は一人当たり平均一・八畳で、一畳未満は六百十二工場中一工場だけだったが、朝鮮では平均一・〇八畳でやっと一畳に達している程度。一番狭い工場は〇・三畳で、一畳に三人というわけだ。照明も、一畳当たり一・九燈で二燈にも満たず、内地では二・三燈が最も多いのに比べて劣っている。これでは暗くて読書や裁縫もムリであり、工場で疲れた眼で、うす暗いところで読書をしては視力の減退を来す。

食物についてみると、朝鮮の寄宿舎では食費を徴収しており、一人当たり十八錢ぐらいいだ。筆者が見た昼食は相当粗悪で、食費支出の内訳を見ても、米と麦が七二・六%、漬物九・七%、肉類五・二%、ミソなど二・五%と、麦飯に野菜も入っていないミソ汁に漬物という献立。野菜や肉類が少なく、タンパク質やビタミン不足で、栄養不良のため、女工の発育を不完全にしている。



現在の韓国縫製女工さん

次に、浴室は、毎日十数時間も立ち働いて疲れ切った体を温め、いやすのに必要な設備なのに、十分な所は少ない。大工場ですら、入浴回数わずかに週一回、小工場になると工場主の私宅のフロアを使ったり、また男女兼用の場合も多く、浴室はあまりに狭い。

娯楽修養設備は、大工場は大講堂で慰安会、修養講話などを催したり、スポーツやピクニックも励行しているところがあるが、小工場はこの種の設備は不完全だ。

さらに教育についていえば、小学校卒業者はわずかに一二%、中途退学者二〇・四%で、内地の製糸女工がほとんど小学校を卒業しているのと隔世の感がある。朝鮮では義務教育制さえいまだに実施されていないからだ。製糸家は教育程度が低いことを低賃金の口実にしている。しかし、内地では女工は義務教育を終えているので、工場で実科高女程度の教育をしたり、生花茶道など教えてい

る。朝鮮でも小学校も出ていない文盲の女工に読み書きを教えることは雇主にしても女工にとっても利益である。実際、二、三の大工場では専任教師を一人置いて、国語（日本語）、諺文（ハングルの音）算術を教えている。十二時間労働のあと、夜一、二時間の授業は年少の女工には苦痛で出席率も四割ぐらいいだが、貧困で学習の機会のない子弟には有意義だ。

最後に健康状態は、朝鮮南部の諸工場を歩いて見ても、女工の青白い顔と女学校生徒のハツラツとした健康色との間の差は余りに大きいことを感じた。調査した約千三百人の女工中、一年間の罹病者は延千人を越えていた。病気の種類は胃腸病が三三%で最も多く、食事時間があまりに短かく、また粗食のためと見られる。次が耳や鼻、ノドの病気で一六%、第三位は眼病で一〇・五%。このほか、湿気の多い工場での作業のため、水虫に手を侵されている女工も多い。結核患者は、綿ばかりの多い紡績工場と違って、ほとんどいなかった。工場の医療設備は全く不完全で、専任の医師を配置している工場は二、三の大工場だけ。小工場は町医者を工場医として依頼したり、事故が起きたら町医者を呼ぶ程度で、工場内には病室もなく、看護婦もいない。

以上、製糸労働を考察して製糸労働者の労働条件の劣悪なことを知りうると共に、彼女等の私生活がいかに苦しいものであるかが想像されるであろう。「かくて製糸労働者は今や製糸業そのものと共に困窮の内に呻吟しているのである。」

（朝鮮総督府調査月報昭和十三年
一九三八年「六、七月号より」）

上海の紡績事情と五・三〇運動



日本の紡績企業の中国への進出は、一九〇二（明治三五）年十二月に三井の山本条太郎らが、上海の興泰工場を買収、翌一九〇三（明治三六）年に大純紡績を買収、三泰紡績工場とし、一九〇八年に最初に買収した興泰と三泰とを合併して上海紡績を作ったのに始まる。続いて内外綿株式会社が一九〇九（明治四二）年に上海に工場敷地を買収、上海出張所を設置、川邨利兵衛が中国に渡り、一九一一年に第三工場を、一九二二年に第四工場を操業している。

日本は、①低廉な労働力、②関税を払わなくていい、③生産品の広大な市場をねらい、④中国軍閥政府の労働者への弾圧、を利点として使いすての労働力の獲得を目的としていた。

内外綿株式会社は、明治二十二年九月に創業されているが、その時からすでに中国進出を想定しての設立であった。一九一一年以降、殆んど毎年のように工場を設立し、一九二五年五・三〇事件の時には内外綿一社で一四の工場をもっていた。その当時（二五年）の日本企業の中国への進出状況は別表の通り。

中国人経営	一九一三	一九三三	一九二七	一九三一
日本人経営	五〇四	二〇三三	二〇三三	二四〇三
日本人経営	七五	九六二	二〇三三	一六三〇
英国人経営	一七六	二五五	二〇五	一七七

一九二五年当時の日本紡績企業	上海に二七社
中国に四一社	一七六五社 青島に九社
内 外 綿	一四 上海紡績 四
滿州紡績	一 日華紡績 四
大日本紡績	一 裕豊紡績 一
東華紡績	二 東華紡績 二
豊田紡績	一 上海製造絹糸 三
富士瓦斯紡績	一 同興紡績 二
日清紡績	一 長崎紡績 一
	一 泰安紡績 一

一九一三年の日本人経営の七五工場は三一年には二十倍千六百三〇にふえ、市場占有率も六十%にまで高まっている。日本の紡績工場に働く女工たちは非常に苛酷な労働をしいられていた。

労働時間は昼夜二交替制、十二時間労働、夜勤手当なし、労賃は安く、一日に最低は一日一角三角。住宅は三・四世帯から七、八世帯が雑居しかいこ棚のようなベッドにカーテンでしきりをしただけのものにおしこまれていた。

食事は豚の餌のようなまずいもので、便所に行くのにも便所札をもらって行くという状況であった。その他給料からの天引貯金をとられる。それは死んだり病気になったりして会社をやめる時にも返さないしくみになっている。

それと特徴的な事として、六、七歳の幼児を見習工として使い、成年に達するまでは養成工として、殆んど賃金を払わずに使い、自分たちの思うよう

に使うとした。

作家の夏衍氏は「包身工」と題する短編小説の中で、紡績女工の実態を次のように書いている。

労働請負人の親方が水害や干ばつに苦しむ農村から、都会に行けば食えるという甘言で親元から、娘たちを上海に連れてくる。契約金は二十円、三年の契約で、食事、宿舎つき。しかし親方はつれて来ればもう自分のもの、豚の餌のような豆腐カスの食事で、狭い長屋に沢山詰めこみ、朝五時から夜六時まで工場の仕事に送りこむ。四時半には親方が叩きおこしに来る。冬の寒い朝、病氣といっておきないと、冷たい水をぶっかけ、仮病はこうして治してやるといったり、殴る、けるの暴力をふるう。請負制だから一人でも休むと親方の収入がそれだけ減る。一人の女工から二百二十円も収益をあげていても、女工たちは一日十二時間働いて、一角から三角八分までという安い賃金で働かせている。

機械の騒音とわたばこり、高温の中での作業でみんな健康を害す、しかし少しのミスでもあると、殴られ、賃金を引かれ首にされる。しかし首にすると上りが少なくなるから、もっぱら殴って給料を引く。殴って死んでもかまわない……と命令されていた。

上海の日本の工場で働く四万八千のうち二万四千以上はこの包身工である……といっている。

五・三〇運動の発火点となった内外綿の二月のストライキの発端も、幼年工を養成工としてしこみ、金のかかるうえに権利を主張するうるさい成年の労働者を首にして、養成工に変えたことにある。

内外綿のストは上海の日本企業の他工場にも波

第2回 女大学

1977年5月18日

経済侵略と女性

—いま考えるべきこと—

評論家 北沢 洋子



経済侵略、つまり日本の資本投資は、今から十二、三年前、一九六〇年代のなかば頃、繊維・家庭電器など軽工業部門の企業によって始まった。それらの企業が海外に進出し、安い労働力を使って生産したものを日本に逆輸入したり、その国に売りつける、あるいは第三国、つまりアメリカ、ヨーロッパなど先進国に売りつけたわけだ。

経済侵略について話す場合、本当のことを云つたら明治時代からの日本のありかた、つまりアジアと日本がどのような関係にあったか、から考えていかなければならないと思いますが、ここでは一応、戦後、日本が四つの島に閉じこもって海外植民地を全部手離した時からにして話を進めたいと思います。

朝鮮戦争で侵略パターンが決まった

当初、日本は焼け跡時代で、食糧も自給できなく、国民は二合五勺の配給を受けて暮らしていた。ちょうど今日の第三世界、開発途上国の人が置かれている状況と似ていたわけですが、日本は急速に復活し、たちまち戦前の水準を抜いてしまった。朝鮮戦争が始まったからです。マスコミが「神風」と呼んだ外から吹いてきたブームで、アメリカ軍から戦車、戦車で破壊された兵器の修理がどんとくる。「それ作れ」「それ生産しろ」と云うわけで、生産力は上がるし、働き口もふえた。他の国の戦争を餌に儲けたわけだ。その結果日本は、外から原料を持ってきてそれを加工して外国に売りつけることで、戦前の植民地からの取奪と同じような利益を得ることができると考えたわけだ。私は財界人にとつ

て、これは神の啓示ではなかったかとみるわけだ。その時、戦後のパターン・経済のあり方が大体決まっていた。そして朝鮮と日本の関係についていけば、以来、相手が悪しんていうことが日本のプラスになっているような生き方が、出来上がった。それだけではない。朝鮮戦争が起ったおかげで、アジア全体が変ってしまった。せっかく民族独立の気運に燃えていたアジアで、朝鮮戦争が起きた。その引き金になったひとつが中国革命による共産政権の誕生だったから、アメリカにとって共産主義をいかに封じ込めるかというのが大きな問題としてなり、アジアが東西の冷戦の中に放り込まれ、軍事政権がどつと出来たのです。そして、その軍事政権を支えるためにアメリカが軍事援助としてドルをアジアにばらまき、台湾、タイ、ベトナムなどにドルが氾濫した。それを狙って日本が猛烈な輸出をかけた。つまり日本が猛烈な輸出をかけたドルを吸収したのである。こういう形がその後十年以上に渡って、ずっと続いてきた。

相手の国の実情を無視した輸出至上主義は、次のような事態を生み出します。例えば農村社会ではトランジスタラジオなどなくてもコミュニケーションがとれる。必要な情報は正確に、非常に早く人間関係で伝えられていた。そこへトランジスタラジオが入ってきて、農村に猛烈な変化を起したのです。タイの奥深い農村の場合、日本のセールのマンの手先みたいのがやってきて、貧しい人々に、買わなくても良いものを売りつけ、その月賦が払えないため、娘達がおおせいの町に働きに出

た。それが至る所で起こる。職を探す人々が増えれば安い賃金で働かなくてはならない。そこに悲劇が始まる。つまり、今まではその娘さんたちは親と一緒に住み、お互いに助け合って暮らしていた。ところが娘が働きに出て、家に現金を入れることで親子関係が完全に変わってしまったのです。彼等は反発すれば良いのですが反発することなく、自分達の考えよりも経済社会がどんどん先に進んで、いつの間にか都市の中でどうしようもないルンペンに立場に置かれていくといった状況になっていったのです。

日本の企業進出はその後始まったのですが、六〇年代なかば頃のアジアはすでに大きく変容し、改造された後だった。日本の商品が無ければ生きてゆけないアジア、日本の商品を買わないアメリカのドルが無ければならないアジア、になってしまっていたのです。その意味で私は、日本の「企業進出」は結果であり、戦後から六〇年代なかば頃までアジアでやってきた「商品輸出」自体が侵略だと思ふ。侵略の結果として日本の企業進出があったのです。

二万人と引きかえに二〇万人が失業

なぜ、日本はアジアに企業進出するのだろうか。

政府の統計によれば（「通商白書」）、相手国の賃金が安いことがまずあげられます。次は、今までのように完成品を売るのではなく部品を持ってゆき、一番手のかかる所を現地で加工し、そこで製品を売りつける、つまり輸出と余り変わらないやり方ができることです。第三に、日本の部品を持ってゆき相手国で生産し、第

及し、上海綿、日華紡、豊田紡、裕豊など殆んど全部の工場四万の労働者をまきこみ、約一ヶ月ストに入り、各工場は操業停止した。

労働者たちは ①日本人はむやみに殴るな、②賃金をあげろ、③誠意した労働者を復職させよ、④スト中の給料を払え、⑤労働者の権利を認めよと要求をにかけて闘った。

当時のことを揚之華は「回想の瞿秋白」の中でこういう。二月のストライキは二月九日から月末まで続き、小沙渡の内外綿の十一の工場から、同興、日華および楊樹浦の大康などの紡績工場におよび、ストライキ労働者の総数は四万人前後に達した。私はこの時はじめて、労働者階級の強大な力と厳密な組織性、規律性を目のあたりに見た。

この時のストライキで、日本の資本家は、国民党の反動派と結託して工場を閉鎖し、賃金支払を停止した。日本の海軍陸戦隊も上陸し、日本第一遣外艦隊の「ツシマ」も上海に回航してきた。小沙渡の中国警察は上からの命令で労働者のデモを武力を用いて解雇させ、ピストルを乱射して労働者の集会を止めさせた。大量の中国側警察と租界の巡査は、身に寸鉄を帯びない民衆を武装包囲し、労働者を逮捕、拷問した。……」と。

米英ソ仏と帝国主義国の中国への侵略におくれをとるまいと、日本は一八九八年に日清戦争で、中国に関税撤廃と工場設立の権利を得た。

内外綿の操業の一九一一年は辛亥革命の年である。次いで日露戦争、第一次大戦と中国は引続いて各国の侵略をうけ、国民は日本への日貨不買運動不平等条約撤廃、五・四運動、上海工場のストなどで闘いながらも、日本と結託した政府の下で弾圧をうけていたが、一九二五年五月三〇日の内外

訂正とおわび

誌2号の表紙裏一昔は鉄砲、今では銃、誤りがあり、誠に申し訳ありません。訂正いたします。お詫言います。

韓国 観光客の94.3%の前に日本の観光客を加える。
台湾 観光客の93%の前に日本の観光客を加える。
中国・香港 現在一の次に香港では観光客を加える。



マレーシアの東レ工場の女子労働者たち

(湯浅れい)

綿の労働者の不当解雇に端を発したストは労働者、学生、市民の圧倒的支持を得て全市をあげた闘いとなり五月六月までストを闘いぬいた。

日本の企業側はただおろろ、調査団を派遣したり、政府と話し合った結果、内外綿が賠償金を払って収拾した。

しかし、日本の中国への侵略は日を追って強められ、中国共産党を中心とした抗日の闘いは、新中国誕生への長い革命戦へと展開していった。

いま私たちは、この歴史を再びアジアでくり返してはならない。

「女から女たちへ」

— アメリカ女性解放
運動レポート —
訳・ウルフの会 ￥500

合同出版

東京都千代田区神田神保町1-52

65万人

すすさわ書店

朝鮮の旅

松本昌次著

信州を考える

長沼石根編

第四世界

伊藤正孝監修

わたしの北海道

上田満男著

「すすさわ書店」

東京都新宿区矢来町56
TEL(267)4443

三國、主にアメリカに売るといふのがある。

だった。繊維と云つても、原綿から糸を織る部分、化学繊維を作り織物にする部分、あるいは物を形に作り上げるという縫製など、三段階があるが、一番初めに進出していったのは、日本の女子労働者の賃金が高くなって割に合わなくなった縫製の部分なのです。続いて織物が出ていった。一番労働力がかかるところから出ていったのです。

繊維の次に進出したのはカトランジ
スター、冷蔵庫、掃除機、ステレオ
テレビなどの家電です。やはりも
すこぶ労働力を必要とする労働集約
型の企業が進出していったのです。
七六年の「通商白書」のなかに繊維
労働者の賃金の比較が出ています。
同じ条件のもの、つまり、同じ年令で
同じ能力を持っていて、同じ教育を
受けた女子労働者の日本の賃金を一
〇〇とすると、衣服を作る最後の縫
製の部分では、香港が四八・五%、
台湾四一・六%。これはまだいい方
で、韓国はなんと一一・三%、日本
の二六分の一なのです。

か考えてみましよう。どんな後進国でも産業が一番初めに起こりとしたら織機なのです。だからどこの国にも土着の織機産業があり、例えばインドネシアでは、伝統的なジャワサラサというものがあります。そこへ日本が進出し、大企業がどんどん投資するのですからたまったものではない。土着の産業は細々とやるか、やめて日本企業に吸収されていくかどうかはしらない。そう云った意味で、労働力が安いのを理由に企業進出するのは、日本の論理ではあつて

も、相手側にとっては、一番初めに起った民族産業の芽をつみとられる結果になるわけです。インドネシアでは六〇年代の終わりの三年間に、東洋紡、トーメン、帝人などの企業が相次いで進出し、またたく間に繊維産業の八割方をおさえてしまったその結果、新たに雇用は二万人増えたが、国連の統計によれば、ジャワサラサの関連産業も含めて、二十万人が失業してしまった。そればかりか、インドネシア人は、それまで木綿を着ていたが、化繊を着なくてはならない状況に追いこまれた。確かに彼らにとって、一部の雇用が増えるものも着れるようになったのだが、はたしてこれは良いことなのだろうか。

日本政府は、アメリカに比較すると日本の海外投資は一〇分の一、たいたことは無いという。しかし、日本が非難される最大の原因は短期間に雨あられのように進出していったことにあるのです。

もう一つ、ほうきの例をおげましょう。よくほうき売りのおばさんが「手作り一本三千円」などといつて売っていますが、実際はほとんど国内では作られていない。ほうきなど家庭用品を作る最大のメーカーはアズマ工業ですが、同社は今から四、五年前、インドネシアに工場を全面的に移転しています。ニッパ椰子で工場みたいなものを作り、農村の女性を雇うわけです。彼女達は朝暗いうちから二、三時間かけて歩いて通い、昼食はその辺で買って済ませ、夕方また歩いて帰る。そして一日働いて得られるお金は、年令に関係なく一律五〇円にしかならない。これでは着る物、食事などの基本的なもの全部足すと、完全に飛んでしま

う。それでも口減らしになればいいから、退める人はいないのです。

私がこのことを新聞に書きましたところ、工場の社長が電話で、「あなたは嘘を書いている。一律五〇円は最初に払ったお金で、今は二三〇円払っている。」「現地の日本企業が払っている普通の賃金であり、彼等は食べるものもないわけだから、そんなことを云われても仕方がない」と文句を云ってきた。私はそういう思想あるいはそれに對してみなが黙つてしまふ、こういう時代に生きているということを、声を大にして云ひたいのです。

警察犬に追われる
南アの女子労働者

当然のことながら、こういうのが実情ですから民衆の不満が爆発する。七四年、田中首相が東南アジアを訪問した時、反日運動となつて表われたのがそのひとつで、私達が気づいた段階では手のつけられない状況だった。しかも私達の意識も知らず知らず変わっていて、彼等の痛みを感じるものがなくなつてしまっている。彼等の批判をともに受け入れる基盤さえなかったのですから、ある意味では大変ショックでした。つまり、何年もの怨念をためてきた彼らと、全然無自覚でできた私達とのギャップは非常に大きい。私たちは相当遅れているわけで、自分自身を縛つてでも知ろうと努力しない限り、彼らに追いつくことができない。アジアを考えると、そういうふうなことであると、私は考えはじめています。

私はちようどアジアで反日運動が起こっている時、南アフリカに行っていました。南アは四〇〇万人の白

人と一七〇〇万人位の黒人で構成され、約四〇〇年に亘って白人が黒人

を支配してきた。こんないびつな關係を可能にしているのが人種差別であつて、白人は黒人に、黒い人間は白い人間に劣るといふ思想を植へつけ、投票権を与えてない。白人の企業で働くのはお慈悲であつて、そうでない者は投獄してしまへという弾圧組織を、一世紀もの間に亘つて延々と作りあげてきたのです。そこへヨーロッパやアメリカの白人国が経済投資をして、莫大な利潤を本国に送っているのです。

南アでもやはり、日本が問題となつていた。世界最大の企業であるゼネラルモーターズ(G・M)がアパルトヘイト反対運動の人々に対し、「あなたの方が文句を云うのはわかるし、黒人達の賃金を上げる用意もある。投資をすることが不正義なら撤退もあるが、われわれの代わりに日本がやってくると、もっと悪いことをする。それでも良いのか」というわけです。私は、そういうられる実態を調査するため、南アに出かけたのです。それは七四年の末でしたから、日本国内では繊維とか家電が海外進出し、安い労働力を搾取するのには良くない、と云い始めていた時期にあたるわけですが、ところが東南アジアではそういつている日本も南アに対しては全く逆で、相変わらず東南アジアでやっていくことを平気でしている。賃金でみるとG・Mに比べて日本のトヨタは半分、日産は半分以下なのです。

織維も似たり寄つたりだった。わずか半年ほどの間に安い糸を売りまくつて、南アのほとんどの織維産業を潰してしまつたのです。そうなる

者が路頭に放り出される。ある日突然解雇を言い渡されるのです。彼女たちは安い賃金で働いているүүл職を失なうのですから、子供のミルクも買えなくなる。だから追い出された彼女たちは工場に入ろうとするそこへ莽猛な警察犬が放される。黒人女性とみれば喉元を狙って飛びかかるという凄まじい光景があらこの工場です。つまり、日本はあまり目につかない所では今までの思想と何ら変わらないことを平気でやっているのです。

他国を踏み台にした軌道修正

話は前後しますが、前述したように日本の経済侵略は一定の軌道修正を迫られました。七三年の石油ショックの時、突然石油価格が五倍になり、トイレレットペーパーまでなくなるといふ騒ぎが起きた時のことです。もう石油価格が上がるべくして上がったわけで、何ら驚くべきことではありませんが、日本はその時、鉄鉱石、ボーキサイト、ニッケルなど一〇〇％輸入に頼っている他の資源でも同様のことが起きるかもしれないと思ひ始めたわけです。お分かりのようにこれらの資源のほとんどは第三世界、発展途上国にありますから、彼等が資源カルテルを作って値段をつり上げる可能性は十分ある。もう一点、石油ショックで、今までのように、国内に工場をどんどん新設するのが難しくなりました。もちろん、公害反対、自然保護運動の影響も大きい。そこで国内に工場を作るのはやめ、公害企業、あるいは大きな敷地を要する産業、つまり巨大産業を海外へ持っていくこ

という計画を立てたのです。そのためにも海外投資というか、産業自体を海外に移動させようと考え、先ず、日本の命ともいえる鉄鉱石、それから石油化学、非鉄金属、パルプ、繊維などのいわゆる公害産業・嫌われている産業を、八五年までに全て海外に持つというと考えた。そんなことは個々の企業の力ではできない政府が一〇〇％資金を融資するという計画が、現実立てられているのです。

もつとも日本の進出企業を相手の国が国有化して、自分のものにするばまだ救いはありますが、大体三〇年間は国有化できないようになっては、それに進出企業は何れも完成品まで作らないで、中間材どまりです。例えば石油化学の場合、肥料や纖維等の原料となるエチレンまでしか作らないから、相手国が完成品にするにはプラスアルファの工場がいる。しかしそれを作る能力はない。要するに中間材を作っても日本に売るしかないわけです。現在すでに、韓国六〇万トン(三井)、シンガポール三〇万トン(住友化学)、イラン三〇万トン(三井)、サウジアラビア三〇万トン(三菱)などのプロジェクトの話が持ち上がっている。一方、日本でも年間四八〇万トンのエチレンが生産されていますから、八〇年代には合計六三〇万トンのエチレンが出廻ることになります。この場合、全てのエチレンを日本が引き取る保証はなにもない。もし日本が引き取らない場合、どうなるのだろうか。困るのは日本ではなく、相手の国なのです。そうなるとエチレンの価格は暴落する。その時日本は当然ダンピングするわけで、産油国は石油を上げようとしても上げることではでき

ないのです。

アルミニウムについても同じことが云えます。ステンレスの材料としてのクロームも六価クロームの公害問題が出てきたため工場を海外に移転させることを考えている。結果はエチレンと同じ道をたどるわけです。

要するに、日本の軌道修正は、もっと巧妙な海外侵略法に切りかえたにすぎないわけです。

自由貿易主義と二〇〇カイルの思想

最後に日本の貿易立国という考え方、つまり、日本が資源を輸入し加工して売る、次の段階では海外で加工してそこを拠点に輸出するというやり方は、韓国や台湾等の国々とも完全に変えたのですが、私はそもそもこういう方法は今も一九世紀の考え方ではないかと思う。つまり、一九世紀のなかば、日本は明治維新を迎えた、ちょうどその頃、インドシナはフランス、ビルマはイギリス、という形でヨーロッパの大国の植民地になつた。それらの国が植民地になる前段階では、ヨーロッパでは自由貿易主義ということが云われた。自由貿易とは文字通り輸出も輸入も自由ということですから、金を持っている者は、その国にどんな悲劇的な状況を起こそうとも、買うのは自由だった。アジアという全く異質の社会に、進んだヨーロッパ文明が入

國の富を全て持ち去つてしまつた。そして弱まつた所を軍事的に占領し、植民地にしてしまつたわけです。つまり、アジアがヨーロッパの植民地になる前にすでに、ヨーロッパが考へ出した自由貿易主義は大手を振つ

てまかり通っていたわけです。

日本だって同様で、危くヨーロッパの植民地になるところを逆に、朝鮮に対し自由貿易主義をおしつけ、コメ、金などはとんど強奪するような形で持ち帰り、その結果として一九一〇年に朝鮮を併合し、植民地にしたのです。だからここにも植民地の前に自由貿易主義という思想があったわけですね。

この時代遅れの自由貿易主義が今に至るも日本では当り前のように横行している。ここに、日本のどうしようもない後進性があると私は云いたいのです。だから自由貿易、貿易立国という考え方を打ち破つていかなければならないと思うのです。

ここに至つて二〇〇カイリ問題が持つている優れた思想が大きくクロージアアップされてくると思います。

地球上の富は、ひとり当該國の専有物ではなく、地球に住む人々全ての共有財産であり、分配も、全ての人々で考えていかねばならない。貧しい人々にも、困っている人々にも分け与えなくてはならない。今日はすでににそういう時代にさしかかつているわけで、ひとり日本人だけが幸福になれば良いという時代ではないのです。

結論として私は、問題を私達が正確に捉え、それに基づいて、私達の日常生活のレベルにまでその問題をひきつけて考えていかなければならない時代に来ていると思うのです。

（テーパー起し文責）安藤初美
五島昌子

「一日も早く釈放されるように」

李小仙さんへ——届かない手紙

李小仙さん

寒さのきびしい冬のソウルの獄中で、お体はいかがでしょう。何回とない坐り込み、デモ、ハンストなどで殴られ、連行され、拷問されて、痛めつけられたあなたの体が、冷たい獄舎で一層痛んでいるのではないかと案じます。

私たち、日本のアジアへの侵略を二度と再びゆるしてはならないと考えている日本の女性たちが結成した「アジアの女たちの会」の会員は、あなたの七年間の闘いを知って深く感動し、敬愛の気持ちを抱いております。あなたは、最愛の息子、全泰壹氏がわずか二十二歳で、平和市場の貧しい労働者たちが人間らしく生きられるようにとわが身を焼いたとき、わが子を失うという母親として何よりの悲しみに打ちひしがれることなく、「お母さん、ぼくの死をムダにしないで」といういまわのきわのわが子の叫びをしつかりと受けとめられました。そして苛酷な労働条件で酷使されている平和市場の少女たちと共に「労働者の権利は労働者自身の闘いによってのみかちとることができ」という亡きわが子の闘争の志を文字通り実践に移されました。

こうして、権力のいかなる脅迫や弾圧も恐れず労働者の人権のための闘争の先頭に立たれたあなたは、労働者の血と汗の犠牲の上に手にした

ぜいたくな生活をむさぼる人々にとつてはゆるせない存在となったのです。彼らは昨年夏、あなたを投獄し、また、あなたが闘いの拠点にしていた平和市場の労働教室をも奪ったのです。あなたが身をもつて訴えた「労働者の覚醒と団結」こそ、彼らはなによりも恐れたに違いありません。

ここで、私たちは、あなたが受けている苦しみ、決して私たちと無縁のことではないと思わざるを得ません。なぜなら、日本が経済的にあなたの国を蹂躪していること、とくに、平和市場や各地の紡績工場で、労働者が低賃金で搾取されている繊維産業には日本の資本が入り込んで利益をむさばっていること、などを考えるとき、私たち日本の女として目をつぶり手をこまねいていてはならないと思うのです。

六百万韓国民が、あなたの釈放を切に求めているように、私たちも、あなたが自由の身になって、再び労働者の闘いの戦列に加わり、労働者が「機械でなく人間として生きられる」日が来るように願わずにはいられません。

貧苦の中で教育を受ける機会もなく、子育てに苦勞を重ねていた一人のごく普通の母であつたあなたが「膝

を屈して生きるよりは立つたまま死ぬ覚悟」で闘い、労働者の母と慕われるようになったその姿に、私たちは韓国女たち、そして民衆の限りなく強さ、たくましさを感じ、ここにこそ韓国の輝かしい未来を垣間見る思いがします。それは、私たち日本の女たちにとつても、大きな励みであり、アジアの民衆の犠牲の上に築かれた日本人の生活のあり方を根本から問われる気がします。

あなたが全泰壹氏五周年追悼集会で述べられたように「死を覚悟して闘うものは必ず勝利するであろうし、この正当な闘いはだれも止めることができない」と私たちも確信しております。あなたの闘いを、心から支持し、勝利を祈りつつ、私たちも日本の女性としての闘いへの決意を新たにしております。

今年、一月十八日、私たちの会が

開いた「女大学」では特に「立ち上がる韓国女子労働者たち」をテーマに、民主化闘争をしている二人の在日韓国女性から、あなたについて、そしてまた女性を中心に盛り上がりつつある労働運動について報告を聞き、出席者全員深い感銘を受けました。あなたを思う私たちの熱い思いを一人でも多くの日本の女たちと共有したいと思います。

どうか、お体をくれぐれも大事になさって、一日も早くお元気で獄舎を出られるようにと祈っております。一九七八年一月十八日「女大学」で

アジアの女たちの会

〔注〕この手紙は韓国語に訳して李小仙さんに送るつもりでしたが、現在の韓国のきびしい状況で、投函は控えました。しかし、私たちの気持ちを日本の女たちに知ってもらいたいと、全文掲載することにしました。



ホコリの作業場で食事する韓国女子労働者

映画

彼らは決して忘れない ——タイのハラジーンズの闘い—— 紹介



ゴボウ抜きにもめげず……ハラの女たち

きものの低賃金、劣悪な労働環境、長時間労働に苦しめられていた。賃金の不払い、労働者の首切り、労働条件に対する怒りと不満はついに限度を超え、女子労働者達は要求を掲げてストライキに踏み切った。しかし、企業側は一片の誠意も示さずストは長びき、食するための金もない状況に直面した労働者達は、一九七五年十二月、工場の設備を使ってジーンズやシャツを自分達の手で生産し販売することを決意し、工場を「労働者団結工場」と改め自主管理による生産を開始した。

こうして四ヶ月にわたるハラ女子労働者の長い闘いが始まった。

しかし、彼女らのまわりの政治状況は、刻々と緊張の度を強め、クレーターのうわさが流れ、暗殺が相次ぐ中で、一九七六年三月、団結労働者工場は、強制捜査され、クレーター首相に面会を求めて首相の家の前に坐りこんだ労働者たちは、警官にごぼう抜きにされ逮捕された。工場は警察に守られながら、操業を開始した。彼女達は、警察も政府も資本家と一体になって自分達を弾圧する者であること、今の社会では法も正義も貧しい労働者の側にはないということを痛いほど知らされた。

それから半年ほどたった一九七六年十月六日、タマサート大学でくり広げられた血ぬられた虐殺の現場の

シーン、新たな怒りを呼び起こす。すべての自由が圧殺され、闘ってきた人々は、殺され、木につるされ、焼かれ、投獄され、地下にもぐった。重苦しい沈黙の時代がやってきた。しかし、この三年間、タイの人々は自由の息吹を吸い、様々の経験の中で解放された未来の歴史を垣間見た。ハラ女子労働者達は、

団結し、抑圧と搾取をはねのけ、人間としての権利に目覚め、自らを管理する主体として自主管理闘争を闘い抜き、闘うべき敵がだれであるかその正体を見定め、共に闘う連帯の相手を見出していった。この映画の収益は、彼らの闘いのために寄付される。

(不破真理)

資料紹介 進出企業の実態を知るために

海外進出企業総覧 1977/78 1977年海外市場白書 昭和50年度版 我が国企業の海外事業活動 東南アジアの投資ガイド ——海外投資を計画する企業のために—— 海外投資・技術輸出要覧 国別海外投資要因一覽表 1974年版 海外投資の手引き—アジア篇— 発展途上国への企業進出の諸条件 ——アジア諸国を中心として—— 各国の経済開発と外資導入制度	東洋経済新報社 日本貿易振興会 1977年 通商産業省産業政策局編 商工組合中央金庫 1973年 重化学工業通信社 世界経済情報サービス 大阪商工会議所 大阪アジア中小企業開発センター 1973年 科学技術調査委員会海外室 1966年
★ 文献解題 多国籍企業と発展途上国 多国籍企業と労働政策 —ILO報告— 多国籍企業の行動指針 ——OECD宣言の解説—— 今日の南北問題 日本帝国主義と資本輸出 現代資本主義と資本輸出	★ 藤井 正夫編 アジア経済研究所 日本労働協会訳編 1974年 福田 博編 時事通信社 1976年 ★ 川田 侃編 日本評論社 1976年 鎌倉 孝夫 現代評論社 1976年 清水 嘉治 新評論 1973年
★ 第三世界と日本 多国籍企業と第三世界 自力更生と新国際経済秩序 なぜ海外に進出するか ——日本企業の意見と実像—— 日タイ青年友好運動ニュース ——特集 タイを食いのにする日本資本—— Free Trade Zones & Industrialization of Asia AMPO: Japan-Asia Quarterly Review “海外進出”を撃つ 低賃金地帯に行く—韓国—	★ 西川 潤 潮出版社 1974年 西川 潤 毎日新聞社 1976年 サミール・アミン 「展望」1977年12月号 ★ 上山郷 利昭 ダイアモンド社 1975年 No.25 1977年 1977年 化学労活編 1977年 反公害輸出情報センター 1977年

ひろば

知人が持っていた「アジアと女性解放」を読んで「宣言」を支持し、入会を申し込みたいと思います。女性解放は意識改革も大切ですが、アジアの人たち、特に女性には性をふみにじっていく中で日本は大きく変わってきたのを思う時、日本人が経済侵略を絶対に許さないという立場で運動を進めてゆかなければいけないと思います。

その為の資料、情報をどんどん載せてください。

木戸恵子(大津市 短大職員27才)

終戦の年に生れた私には戦争の体験はありませんし、日本人がアジアの各地で行ったこともほとんど知りませんでした。いや知ろうとしませんでした。でも最近昭和史を勉強しなおすにつけて日本人が行ったさまざまな事実を知りガク然としました。しかも今、日本は戦争によるアジア侵略の反省もなしに再び経済援助の名のもとにアジアの各地に侵略を始めてつづけるようです。一人の日本人として情けない思いでいっぱいです。私にも何かできることがあるだろうか、何かしたいと思っていたところ貴会のことを知り会誌を見ていただきました。

和歌山に住んでいますので直接運動には参加できませんが、まず知ることから始め、自分の回りの人にも

知らせることをやりたいと思います。田村恵子(和歌山市 電話交換手)

「アジアと女性解放」お送りいただきありがとうございます。

近い国、そして遠くであるアジアの女性たちの苦悩や苦痛、そしてたかいたががんばり、同じ女性として学ぶこと、同じではなくても痛みを感じます。

昨年保母をしていて、この四月から普通企業に勤めて、今日などもあたたかきーセン観光をうらやましているかのような男の人の話に憤りを感じて帰宅し、読みました。女性を不当に差別していることに気付いていないこと、また私自身も認めてしまっているところもあるのではと感じています。

勤労学生のため、今のところ毛布のキャンバスもできませんが、また私なりに友人にも広げていきたいと思います。今日朝鮮人の友人に第一集を読んでもいただきました。

小林初恵(名古屋市)

長いことごぶさたしております。

十二月の女大生へはと思いつつ、それも行きそびれ、「しばらくは手の折り」の上映についてもまだまだこれからです。職探しと引つこしをとり、失業してからもう三ヶ月もたつてしまひ、時間切れと少々あせっております。アパートだけはなんとか街中の所をみつけたのですが、一月いっぱいにはライブハウスの

2階の屋根裏部屋を、女たちが集まって学習会やミーティングを開ける、そして持ちよりの本や新聞(女から女たちへ力となる)をおいた場所に、具体的には私たち女への性差別を軸に世の中を問い、動くための小さな小さな「とりで」を、と、やつと実質二、四人程度ですが、やろうとしてはじめています。

もちろんその中で、アジアと私たちについて、「アジアと女性解放」のパンフの学習会、そして私たちが自身地域の女たちへ、そしてその中でアジアを問いたいと思っております。浜松でもいろんな女たちが、あちこちから声をあげはじめたら……(形には見えなくてもやっていると人たちは思っているのですが)私たちがもくつきり、ひとつのところから問い、行動をしようのつもりです。

小出恵美子(浜松市)

先日、毛布の代金とともに、「アジアと女性解放」第二号の代金として千円を送りました。今日二千円を送り致しますので、第一号と二号を何冊かお送り下さい。その他のパンフレット等もいくらかいただけではありません。何人かの男性に「アジアと女性解放」を見せましたところ大変に反響が大きく好評(?)を得ましたので。

豊田道子(大分市 高校教師)

前略。「アジアと女性解放」を送って戴き、有難うございました。

から輝かしい明日への夢に血潮の高鳴りをおぼえずにはおられなかつたのです。どうぞ一時的な気まぐれと好奇心でなく、末長く初志を押し通して下さるようお願いいたします。

不正政権の延長をたくらみ、二つのコリアづくりに血まなこになつている朴に手拍子を加えている日韓癒着のどす黒いカベを打ち破り、両国の真の友情とアジアの幸せのために、今後の御活躍を遠くからお祈り致します。微力ながら私も入会致したいと思ひます。(一九七八・二・九日受)

【西ドイツ】
「アジアと女性解放」がありがたく拝受しました。昨年八月東京で知り合つて、あなた達が正義に対して戦っているのを知りました。そして、権力下で不当に苦しんでいる人たちが、すなわち弱者たちと連帯的な立場を固守するみなさんに驚嘆しました。長くつらい過去をもつた韓国女性た

【イギリス】
「ウイメン・フォー・ライフ」は、英国で人工中絶の合法化をめざしてたたかっている女性解放グループです。「アジアの女たちの会」の運動に非常に興味があります。とくに、「観光買春」反対運動についてお知らせ下さい。というのは、ヨーロッパの観光案内にも、最近、「買春」を売り込むものが目立つからです。こうした問題をとり上げていられしやることを嬉しく思います。

ダイアナ・フォレスト

(英国 ロンドン)

海外からの便り

【アメリカ】
在米韓国愛国女性連盟の李宝培夫人より

ニューヨークで韓国民主化運動を続けておられる李宝培夫人は、昨年八月東京で開かれた民主民族統一海外韓国人連合(韓民連)結成大会に出席されたので「アジアの女たちの会」のスピーチ、日本語と英文の機関誌などをさし上げ、お互いに運動を説明し合い女性の立場で共に闘いましょうと話合いました。その後送られてきた同連盟の機関誌「ヨドン」第四号は、次のような連帯の言葉を添えて、「アジアと女性解放」私たちの宣言」を前文で紹介し、東一紡績の「貧しい労働者の叫び」も掲載しています。

「在米韓国愛国女性連盟は日本の「アジアの女たちの会」のことを知ってうれしく思います。そして三月一日の宣言を熱烈に支持します。今後アジアの女性たちが正当な権利を享受できるように活動に共にすることを希望します。」

また、私たちの会の機関誌第二号を送つたのに対して、李夫人から次のような手紙が来ました。

「機関誌大変興味深く読みました。日本語が不自由なために読むのに時間がかかりましたが、色々知ることができ、また日本語を忘れないために努力の甲斐がありました。一月二十九日にニューヨークで開いた「ヨドン」第三回年次集会で李小仙女史を「韓国労働運動の母」として表

活動報告

- 9・27 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 9・29 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 10・ 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 10・19 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 10・26 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 10・27 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 10・30 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 11・16 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 11・24 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 12・7 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 12・14 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 12・19 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 12・24 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・11 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・15 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・18 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・23 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・29 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 1・30 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 2・8 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 2・15 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 2・23 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 2・26 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 3・4 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 3・22 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 3・29 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才
- 3・30 女子学生(早大助教授) 大津市 短大職員27才

